

私がデビューしたころ



[私がデビューしたころ_ 下载链接1](#)

著者:

出版者:東京創元社

出版时间:2014-6-28

装帧:单行本

isbn:9784488027322

【東京創元社創立60周年記念出版】

作家のデビューは、時に小説以上にドラマティックである。

「ミステリーズ！」の好評連載に書き下ろしを加えた、豪華執筆陣全51名のエッセイ集。作家を志したきっかけや、新人賞受賞までの道のりなど、デビューまでの波瀾万丈の逸話と作家であり続けるための創作論を、デビュー年順に贈る。

51のエピソードで読み解く、戦後日本ミステリ史！

作者介绍:

目录: 序文 戸川安宣（東京創元社顧問）

1 1940-1960年代

1949年 土屋隆夫 「隅の老人の思い出」

1955年 高城 高 「探偵小説の時代」

1959年 芦川澄子 「『愛と死を見つめて』のころ」

1961年 小鷹信光 「十面相×2」

1963年 辻 真先 「ただもう我武者羅に」

1967年 中町 信 「賞金十万円也」

2 1970-1980年代

1974年 山田正紀 「中野ブロードウェイ・ラブソング」

1977年 竹本健治 「一回限りのカーニバル」

1978年 今野 敏 「書き続けること」

1979年 笠井 潔 「二つのデビュー」

1979年 戸松淳矩 「意味のないことなど起こりはしない」

1980年 逢坂 剛 「初心忘るべからず」

1981年 太田忠司 「僕は逆上がりができない」

1981年 島田荘司 「ナツコとの出会い」

1981年 菅 浩江 「SFファンからの長い道のり」

1983年 井上雅彦 「ショートショートが書きたくて」

1986年 芦原すなお 「悲壮で滑稽な意気込み」

1987年 綾辻行人 「宝物のようなもの」

1987年 倉阪鬼一郎 「風が吹くまでの長い道」

1988年 歌野晶午 「無謀に無謀を重ねて」

1988年 法月綸太郎 「ブルー・デイズ」

1988年 樋口有介 「八月の舟」

1989年 有栖川有栖 「二十年目を迎えて」

1989年 北村 薫 「そうだったのか！」

1989年 はやみねかおる 「二足の草鞋が脱げるとき」

1989年 宮部みゆき 「十五年ひと昔」

3 1990-2000年代

1990年 芦辺 拓 「鮎川賞ビフォア&アフター

龍馬でミュージカルを、ついでにロマンス小説も」

1991年 松尾由美 「三度目の正直？」

1993年 倉知 淳

「新人賞を獲らずにデビューしてもまあどうにかなるものだというお話」

1993年 近藤史恵 「失ったものと見つけたもの」

1993年 田中啓文 「脇道」

1994年 愛川 晶 「三週間戦争」

1995年 小林泰三 「夢との再会」

1995年 柴田よしき 「やっと思春期？」

1995年 西澤保彦 「十三年目の再デビュー（のつもりで）」
1997年 荻原 浩 「小説に参戦」
1998年 鯨統一郎 「山あり谷あり」
1998年 柄刀 一 「二度目の処女作までの足跡」
1999年 井上尚登 「反省の日々」
1999年 桜庭一樹 「たったいまの出来事」
2000年 伊坂幸太郎 「喋るデビュー作」
2001年 青井夏海 「夢は自転車操業」
2001年 大倉崇裕 「先生は乱歩賞作家」
2001年 柳 広司 「下僕の誕生」
2001年 米澤穂信 「ボディ」
2002年 石持浅海 「地味です」
2002年 北山猛邦 「まだふわふわしてるの？」
2002年 坂木 司 「時候の挨拶」
2002年 東川篤哉 「タイキブリザードが負けたから」
2003年 森谷明子 「『締切日必着』と『じっくり構想』」
2006年 大崎 梢 「楽しかったり、びくついたり、開き直ったり」
．．．．． ([收起](#))

[私がデビューしたころ_ダウンロード1](#)

标签

小说

日本版

推理小说

推理

作家デビュー

伊坂幸太郎

评论

51位名作家的出道故事，编织出日本Mystery史。保存版

[私がデビューしたころ_ダウンロード1](#)

书评

[私がデビューしたころ_ダウンロード1](#)